

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第一小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	今年度は体育科研究発表会を目標に、体力向上を中心として学校教育目標達成を目指した。教職員が一丸となって取り組み、学校全体にチームワークがより向上し、成果の多い教育活動を行うことができた。	A	職員に協働の意識があり、体育科研究発表への取組や歌声あふれる学校づくり等、「心ひとつに」という目標のもと、学校全体のチームワークが向上した。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	安全・安心な学校づくりのために、危険個所の早期発見・即時修繕を市教委と連携して行ってきた。ショート避難訓練を年間7回実施し、地震時の避難行動力を身につかせた。保護者アンケートでの安全面での評価は(A+B)評価で89.6%であった。	A	避難訓練や実際に地震が起きた時の児童の行動を見ると訓練が身につけていることがわかる。休み時間以外は玄関を閉める等の表示がされ安全への意識の高さが感じられる。今後は、徹底できることを望む。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	埼玉県学力学習状況調査による、学力の経年変化(4年から6年までの学力の変化)を見ると、学力の伸びていることが確認されたが、伸び率をさらに上げるために、くり返しの学習や指導法の研究がさらに必要である。今後も学力向上に向けての取組を継続する。	A	職員に児童を伸ばそうという意識がある。児童の実態から、繰り返し学習を多く取り入れる等、学習方法の工夫をし学力を伸ばしていることがわかる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	学力向上委員会を中心とした学習指導法の改善や工夫は常時行ってきた。興味関心を高め、より理解の深まる学習ツールとしてのICT機器の活用が、昨年以上に進んだ。コンセプトを明確にもった授業を今後も研究していく。	A	児童が積極的に授業に参加できるように工夫されている。ICTを使い授業がよりわかり易く工夫もされていた。さらに、児童が機器を利用して表現をしたり、学びを深めていけることを望む。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	毎月の生徒指導委員会における情報交換を密に行い、学習規律と生活規律の確立に努めた。基本的な生活習慣に係る保護者アンケートでは(A+B)評価が90.1%であったが、B評価の方がA評価より多いことや、指導はしているものの、挨拶などを含めた基本的な生活習慣を確実に身につけられるよう指導することが必要と考え、自己評価はBとした。	A	あいさつについて、よみきかせの時間では、お礼のあいさつなど気持ちが良いが、日常のあいさつでは個人差がある。その他に規律についても引き続きの指導が必要である。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	「学習の決まり・学びの5カ条」と「学校の決まり・みんなの約束」についての児童アンケートの(A+B)評価の結果は、学びが92.1%、約束が96.4%であった。1学期・2学期・3学期と成長するにつれて指導のポイントが変化していくので、その時の状況に応じた指導を行った。	A	児童一人一人の特性や発達段階に応じて指導を工夫している。高学年に対する指導は家庭や地域にも発信し、共に声をかけていけると良い。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	体育科研究が運動好きの児童を育てることにつながり、運動への関心・意欲・態度が向上した。体育が好きであるかという問いに、好きであると答える児童の割合は、高いクラスで98%、低いクラスでも92%であった。外遊びに出る児童の割合がやや低いので、引き続き奨励する。	A	休み時間には多くの子供たちが外遊びしている。休み時間に教師が児童と外遊びをするのも効果があった。運動の苦手な児童も、運動教室により、運動するきっかけや自信をつけ遊ぶことが好きになっていると思われる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	体育通信を発行して各家庭に運動の日常化を呼び掛けたり、休み時間の運動教室や専門家を招聘しての授業など、学校全体での体育や運動への様々な取り組みを行った。その成果が表れ、1日に30分以上運動する児童の割合が、昨年度に比べ12.4%増え、82.5%となった。	A	体育科研究がすすみ、時に応じた体育通信の内容、苦手な児童への運動教室、児童同士の教え合いのある授業づくりなど効果的である。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	なでしこ応援隊やPTAと、学校の連携を質問した保護者アンケートでは、(A+B)評価が94.2%であった。昨年度よりも0.7%増えている。現役保護者に加え、卒業生の保護者にも学習支援していただくことができたなど、地域の教育力の活用が進んでいる。	A	なでしこ応援隊やPTAと連携を取りながら効果的に進められている。さらに、面談を年度末にも行う・所見を具体的に記すなど、一人一人に寄り添っていることを表していけると良い。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A	PTA校外部による日常的なスクールガード見回り活動や、学校メールとPTAメールの併用による緊急情報の提供など、児童の安全確保に努めた。また、健全育成をねらいとした市や町内会の行事へ参加するよう児童に促したり、健全育成を内容としたお知らせを配付したりしてきた。	A	地域や保護者によるパトロールが盛んに行われている。緊急時における、見回りの協力も積極的である。今後は、学校家庭地域が一体となって児童の安全を確保していく。